



**小さな会社は
まず何をすればいいの？**

～新米社長 岡崎の10の物語～



外山 優

「小さな会社の経営者さんの役に立つビジネス書を作りたい」これが私が今回この本を書こうと思った動機です。

私は経営コンサルタントとして中小企業、特に比較的小規模な会社の経営者の方々と日常的に接していますが、そんな中で何度か「自分でも経営の勉強をしたいけれど、基本的なことからわかりやすい本はないかな？」という声を聞きました。

確かにビジネス書というと専門的なイメージがあるため、改めて経営を基本的なことから勉強しようと思ってもなかなか手を出しづらいのかもしれない。また、小さな会社の経営者の方々は場合によってはプレイヤーとして実務もこなさなければならぬため、じっくり本を読んで勉強したくても時間が取れないのが実情だと思います。

そこで、そのような方々に「気軽に」「わかりやすく」小さな会社の経営のポイントを知ってもらうためにこの本を書くことにしました。

この本には最先端の経営理論や経営手法についての話は一切書いてありません。専門用語も使っていません。書いてあることは当たり前のことばかりです。常に多くのビジネス書を読んで普段から勉強をされている方々は物足りなく感じられるかもしれませんが。

しかし、ここに書いてあることは会社の経営を行っていく上でやらなければならないことばかりです。もし、「当たり前のことしか書いてない……」と感じられたとしても、もう一度その当たり前のことができているか振り返ってみてください。何か新たな気づきが得られるかもしれません。

この本の構成と読み方

この本は各章とも物語のパートと解説のパートの2部構成になっています。そして、第1～2章までが経営に関すること、第3～5章が営業面に関すること、第6～7章が業務の運営・オペレーションに関すること、第8～10章までが組織・人に関することをテーマとしています。

この本はじっくり時間をかけて読む本ではありません。まずはさらっと流し読みをしてください。そして、気になる部分があればその部分のみをもう一度読むという読み方をしてください。それで十分に書いてある内容は理解できます。

また、物語は製造業の会社がモデルとなっていますが、非製造業の会社にも参考になる内容となっていますので、ぜひ手に取って読んでみてください。

この本が皆様の会社経営の参考になれば幸いです。